

参加者
募集

2024年
12月7日(土)
14:00～15:30

会場：目黒区美術館1階 ワークショップ室
当日先着順、定員30名程度
聴講無料

今秋開催の当館コレクション展に出品された洋画家・青山義雄(1894-1996)と、医学者で詩人、文芸評論家としても知られる木下柰太郎(本名:太田正雄 1885-1945)は、二人とも1921(大正10)年に相次いでパリに留学し、翌年に出会ってから交友を結ぶようになりました。

現在、神奈川近代文学館の木下柰太郎文庫には、青山義雄から木下柰太郎宛てた書簡が14通収蔵されています。これらの手紙を紹介しながら1920年代から1930年代の二人の創作活動にかかわる交友関係を当館館長が探ります。



1932(昭和7)年8月26日

見て居る。いい兎達て君のことも覚えて居てよく話をして居る。」

「森鷗外先生の遺児二人が巴里に絵をや

木下柰太郎宛 青山義雄の書簡より



交友関係について

青山義雄と木下柰太郎の

目黒区美術館館長トークVIII

橋 秀文 HASHI Hidebumi

1954年、神戸市生まれ。1984年、早稲田大学大学院博士課程を経て、神奈川県立近代美術館に勤務。同館企画課長兼普及課長などを経て、2020年、退任。2023年より目黒区美術館館長。1988年、神奈川県立近代美術館本館(鎌倉)の『地中海的感性の詩人 青山義雄』展を担当。同館『2001年年報』に「瞬時も美に戦うだけが生き甲斐である 青山義雄のスケッチブック」を執筆。2023年、『美術史研究』(早稲田大学美術史学会刊行、61冊)に「木下柰太郎の視覚芸術における想像力と実証性の結びつき：女の首と大蛇の主題を中心に」を執筆。

問合せ先



目黒区美術館

〒153-0063 東京都目黒区目黒 2-4-36
TEL:03-3714-1201 <https://www.mmat.jp>



Meguro
Museum of
Art, Tokyo